

全久院報

松本市深志 3-7-50 電話 0263-36-3211

今年の上半期は・・・

最近は天候も変ですが、社会も今までにない事件が起きます。北海道でお父さんがしつけのため林の中に子供を置き去りにした事件がありました。子供さんが見つかり、子供もお父さんもホッとされたことでしょう。

先日座禅会の資料作りで青山俊董先生の「市民タイムス 従容録」のコラムを開くと偶然子育ての興味深い文章が載っていました。小学校3年生の息子とお父さんの話です。 (新年会にて)



「お父さんが仕事から帰ると仏壇に上げた小銭600円がなくなっていた。息子に聞くとそのお金で買い食いをしたとのこと。怒ったお父さんは『バケツ5杯の水をぶっかける!』と息子を真冬の庭に引っ張り出した。『おまえにこんなことさせたのは育てた俺にも責任がある』とまず自分で5杯の水をかぶった。心臓が止まるくらいの冷たさだった。そのしぶきを受けながら息子も涙を流しながらしぶきをよけようとしめない。『この子は俺の血を分けた大切な息子だ』と胸に迫るものがあった。が、心を鬼にして凍るような水をかけた。かけ終わると子供を横抱きに風呂場に飛び込み、乾いたタオルでゴシゴシこすってやると、息子も自分をこすってくれる。二人とも抱き合い男泣きに泣き続けた」、という話です。

修証義の第4章に四摂法(ししょうぼう)の教えがあり、その4番目に「同事」という教えがあります。相手と事を同じくし、相手の喜びや悲しみを我喜びや悲しみと受け止め、共に行じて行くことを言います。誰しも頭の中ではわかっていることではありますが、それを具体的な形として行動することは大変難しいことと思います。自分の思いをどのように具体的な形にして行動できるか問われている時代だと思います。おじいちゃんやおばあちゃんの体験談を聞き、それを子孫に伝えながら、自分も行動してゆく、先人の行いを自分も具体化させることが大切だと思います。批判するのではなく、過ちを自分のものとして受け止め、自分が相手だったらどうしてももらいたいのか考え、同事の心をもって具体的な行動をすることが大切です。しかしその具体的な行動が何か、それを見つけ出すことは大変難しいのです。一緒に考えてゆきましょう。

次に、本堂の瓦の葺き替えの一連の工事でまだ手を付けていなかった「蔵の屋根の瓦吹き替え工事と、副住職の部屋増築工事」を開始することについてようやく始まる体制が整いました。工事については瓦吹き替え工事の時に了承されていますが、7月の総代会にて具体案を提出して工事を進めてゆきたいと思います。詳細をこのお便りで報告しながら、進捗状況をお伝えします。

お盆参りのお知らせ

本年度のお盆お参りの予定を次の表にしましたのでご覧いただき、ご準備をお願いします。本年も副住職俊浩が松本市の北半分を回り、私が南半分を回ります。副住職も檀家様の場所を少しずつ覚えてきておりますので、計画

どおりお盆のお参りができるかと思ひます。お参りの日とおおよその時間はお盆の旗を入れた封筒の裏に記入してありますのでご覧ください。

毎日80軒前後の軒数を回ります。朝7時半から夕方7時ころまで回ります。事前にお配りする、五色の旗を入れた案内の封筒に記入した期日と時間どおりにお参りがなかった場合は、電話などでお問い合わせください。今年の予定は下記の表のとおりです。去年の周り順と多少変更がありますので、ご覧ください。

8月	副住職の回る範囲	住職の回る範囲
10日	安曇、明科、麻績など超遠方	安曇、明科、麻績など超遠方
11日	並柳、寿、塩尻、村井、平田、 など市外南部	笹部、征矢野、南原、石芝、二子、神林、 笹賀、など市外南部
12日	筑摩、神田、惣社、山辺、清水、横田、 など市外北部	石芝、高宮、南松本、荒井、新村、波田、 岡田、桐、沢村、蟻ヶ崎、城山など
13日	源地、日ノ出町、県、西小松、清水、 四谷、女鳥羽、下横田など市内北東部	宮村、埋橋、庄内、東中条、豊田町、南新町、 井川城、など市内南部
14日	裏町、片端、下横田、女鳥羽、旭町、 元町、横田、美須々、浅間、北深志、 沢村、田町、など市内北西部	鎌田、本庄、博労町、天神、宮村、中町、 小池町、飯田町、本町、 新橋、島内、蛇原、
15日	上土、六九、西堀、城西、宮淵、城山 留守だったお宅、	白板、渚、巾上、伊勢町、国分町、 留守だったお宅
16日	留守だったお宅	留守だったお宅

お盆前の作業と懇親会に

本年も、お盆が始まるにあたり、本堂の掃除機かけ、山門の掃除、お墓の掃除や、窓拭きをしていただき、その後懇親会を催したいと思ひます。常日頃の掃除は家族と、りらの会が掃除をしています。畳と木材の建物の掃除は手を抜くと建物自体が痛んでいきますので、先輩のお坊さんたちが伝えた方法で掃除を進めます。やはり雑巾がけが一番肝心と思ひます。後は部屋の隅がきれいになっていないとすぐに汚れが広がります。たかが掃除ですが、先輩から伝えられている方法を次世代にも伝え、築100年を過ぎた古い伽藍を磨いて、ぴかぴかの板の間を維持してゆきたいと思ひています。



ぴかぴかの本堂へ皆様をお迎えするためにも是非皆様お集まりください。毎回参加していただく常連さんでもできました。右の写真は、お墓の掃除が終わり玄関前での集合の様子です。皆様もぜひご協力ください、願ひします。

7月24日(日) 14時全久院の庭に集合、掃除(お墓の清掃・本堂の掃除機かけ・窓拭き・山門二階の拭き掃除など)、掃除が終わり次第、17時より夕食を兼ねた懇親会

作業のできる服装でお越しください。汗をかきながらの作業や懇親ですので、堅苦しくないお寺の一面もわかっていただけるかと思えます。参加希望の方は食事の都合がありますので、電話にてお申し込みください。

盆棚の飾り方

お仏壇はご先祖様をまつるばかりでなく、仏様の世界、須弥山（しゅみせん）を表しています。仏教の始まったインドの人々にとっては孤高で白雪を頂くヒマラヤ山脈の峰々は、神聖な場所として信仰の対象となっていました。お釈迦様が説かれた仏さまの住まう須弥山はきっとこのヒマラヤの山々をイメージしたものだったのでしょう。私たちの祖先がお盆の間住まう場所を須弥山に見立てて作られたのが盆棚です。その飾り方はそれぞれの家によってみな違いますので、ご先祖様が代々伝えてきた飾り方を大切にしてください。また下記に一般的な飾り方を示しますので、飾り方の不明な部分はどうぞ参考にしてください。



1、棚を作る場合（右の写真参照）

上の段に本尊様、（本尊様は仏壇の中に入れ、盆中は扉を閉じておくというお宅もあります。その家のやり方を尊重してください。）お位牌、塔婆を奉る。お位牌は古い順に向かって右へ、新しいものは左へおまつりします。2段目には供物をお供えします。お供物には二種類あります。水（お茶）、食（お膳、果物、菓子、嗜好品）などです。3段目に過去帳、花、燭台、線香立て、鐘、マッチや火消しや線香入れなどの道具をおきます。右の写真は先祖から伝わる組み立て式の盆棚です。昔からの伝統を継続するのは「めんどうで、大変」なことです。お盆を迎える気持ちが整い、良いものだと思います。きっと子供たちが見ていて真似して自分たちを祭ってくれると思います。

2、仏壇を使う場合

仏壇は常のとおり奉る。手前に経机や机を出すお宅は机の上に、経机を出さず引き棚を使うお宅はその上に棚の3段目に飾る過去帳や花や鐘などを飾る。その他灯籠や飾り花、いただいた供物などは適所に飾る。

3、またお寺が配る五色の盆旗は、写真のように広げて糸などを通して吊るか、棚に広げておいてください。

初めにも書きましたが、こうでなくてはいけない、ということはありません。先祖様をお迎えするという気持ちをこめて、その家に伝わった仕方で飾っていただくのが大切なことと思います。

全久院の集い

座禅会 ・ ・ ・ 青山俊董師「従容録」の講義 ・ ・ ・

禅や仏教には数字がよく出てきます。「四苦八苦」「八風拭けども動ぜず」など皆さんも口をついて出てくる言葉があります。今回は54則「雲巖大悲（うんがんだいひ）」を例に上げます。

850年頃の中国の禪師様「雲巖（うんがん）禪師」とその弟子道悟の問答で観音様の広大な慈悲心に関するものです。この中に数字が出てきます。まず、「八面玲瓏（はちめんれいろう）」。八面は前後、表裏、内外、上下の八面。どこから見ても玉のように透き通って曇りのない慈悲心を表します。自分の心を見つめる時八面から自分を見つめて、初めて自分のすべてを見つめることができる、そんなものの見方を教え作れる「八」だと考えます。

「十方通暢（じっぽうつうちょう）」十方は東西南北、東南、西南、西北、東北（四方八方）と上下で10方になります。通暢はすべての本質を見極めること。私たちは一方に明るければ一方に暗く、どうしても偏った見方しかできません。四方八方は平面での広がりに限られますが、そこに上下の視点、つまり上から見たり下から見たりして、平面だけの視点から離れ上下の視点を入れたり、人間関係の上下の観点を取り込んだりすることで偏りを見つけ出してゆくと、本質が見えてくるという意味になります。

「放光動地（ほうこうどうち）」お釈迦様が説法をした時、眉間より白毫光（びやくごうこう）が東方18000土を照らし、その時六種（地、水、火、風、空、識）が震動したと言われます。釈迦は西方浄土にいるので、東を向いていますから東を照らします。「土」は一仏土を言いますが、小世界が10億倍されたものです。小世界は仏教が作り出した人間に関わる世界で中心に須弥山があり、現代的には太陽系の広がりになります。ですから一仏土は銀河系の広さになると、ある数学者は計算しています。仏教ではこの一仏土をかぞえきれなく輪廻転生を繰り返すのが人間で、真理に目覚めて解脱すると、この輪廻転生から脱し成仏するとされています。仏教の持つ宇宙観の中で、お釈迦様の説法は仏土を震動させ、18000の仏土を照らしたということになります。しかし仏の生活は私たちの一日一日の生活の為すべきことを為す生活ですから、私たちの生活はそれだけの価値あるものであり、それだけの価値ある命を私たちは生きているということになります。

このように仏教では数字にまつわる教えがたくさんあります。「八面玲瓏、十方通暢、放光動地」などぜひ覚えていただき、日々の生活に役立ててもらえたらと思います。為すべきを為すなどは当然なことで、これが仏の教えかと考えてしまいますが、実行することは大変難しいことです。

「一日為すべきことを為す生活」実践したいと思います。

新年会 本年は1月16日

（土）に開催されました。例年どおり茶席、本堂での座禅、読経。席を庫裡に移し護持会の総会、御詠歌、合唱とお愉しみを含めて和やかに行事を進めました。そして乾杯の後宴会と進みました。右の写真はご詠歌の会、観音講、歌の会と一緒に合唱をしたところです。



もっと皆さんが楽しめる新年会にしてゆきたいと思いますので、皆様も是非ご参加ください。

葬儀や法事に全久院をご利用ください！

最近の葬儀は「家族葬、直葬」など初めて聞くような言葉が氾濫して、葬儀の環境が変わってきました。家族葬のように、生前関係のあった方々を呼ばずに、ごく身近な家族

や親戚のみで葬儀を行う形式が増えてきました。それはまだ良いほうで、火葬だけして終わり。火葬したままではよいが、それを置いて関係者が消えてしまい、遺骨が置き去りにされたなど、今までには考えられないことが起こっています。信じられないことが起こる世の中になってしまいました。都会の風潮の変化がマスコミで取り上げられる為でしょうか、地方に伝統的に守られて来た葬儀や法事の形態が徐々に変わり始めています。以前のように多くの人に知らせ、動員をかけるような人呼びは必要ないかと思えます。が、家族以外に知らせなかったため、後から知った方々が、葬儀後ひっきりなしにお参りに訪れるという、予想外の状況が生まれています。「お参りに来る方々の接待で休まることがなく疲れ果ててしまった」などとおぼされた方もいます。

伝統的な儀式は古臭い、と片付けてしまうのではなく、時代を超えて先祖が作り上げてきた理由を理解することが必要と思えます。自分や家族が絆を深め、悲しみに傷ついた心を癒し、亡き人の分まで代わりに生きようという新たな力に切り替える先祖の智慧が凝縮された儀式なのです。ですから、自分がどう生き、どう死を迎えるか、はっきりと自分の考えを家族と一緒に確認しあっておくことが必要です。自分のことなのに、周りに流されて、何のための葬儀だったのか分からずに終わってしまうことのないようにしましょう。

何度もこの紙面にて報告していますが、業者のホールを使った葬儀や法事は、最新の設備を備え便利で快適ですが、その分費用はビックリするほど高額になります。葬儀費用を比較してみますと100人のお参りの人が来る葬儀を仮定すると、ご遺体の自宅への搬送から始まる全ての費用は、ホールを使う業者では、100人×25000円=250万円くらいを想定しています。寺を使えば100人×10000円=100万円くらいになります。差し引き150万円程の差。

「寺を使うと人手がかかり大変ではないのですか？」と聞かれるのですが、まったくご心配は要りません。ことの葉式典部（電話32-8722）かメモリアルライフ信州（電話40-7745）へ電話するだけです。行政などへの手続きや、花や供物の発注、葬儀の内容や「あとふき」など、みな業者がやってくれ、皆さんに負担は掛かりません、

業者に「積立金があります」と言われますが、それが30万円としても、120万円浮いてきますし、その積立金を法事などの別の用途に使うこともできます。

葬儀や法事は宗教的な儀式ですから、寺という場所でなければ、その儀式を行う意味が薄れてしまいます。また経済的な面も考慮してお寺を使っただけだと思えます。イスに坐っていただけのように、駐車場の確保、など以前よりは便利になってきていますし、是非ご一考ください。いざという時に慌てぬよう、自分の葬儀の仕方を住職と相談しておくことをお勧めします。葬儀の後、請求書を見て子孫をビックリさせるようなことだけはしないでいただきたいと思えます。ぜひお寺での葬儀や法事をお考えください。

茶道コーナー

・ ・ 初釜 ・ ・

1月11日（月・

成人の日）毎年恒例の初釜を行いました。全久院の茶道部はお弟子さんの会を「即心会」という名で呼んでいます。現在40名ほど登録されています。この皆さんが一年の稽古はじめに集まり、「今年も稽古を頑張ります」の志を高める会です。また、住職



と副住職もお弟子さんに濃茶と薄茶を振舞い、懐石料理を賞味してもらいます。

・・・茶事・・・ 6月19日(日)風炉の正午の茶事を行いました。茶道は茶事を行うために部分的な点前の稽古をして身に着けることを目的にしています。ですから、今までの稽古の集大成をみんなで確認しようということになります。まだ身につけていないものがあれば、それを確認して、もう一度稽古をしてゆくきっかけになります。「風炉」は5月から冬の装いを変え、夏の暑さの中、涼やかに客を迎える室内のしつらえをするために、炉をふさぎ炭が少なくてもお湯を沸かせる道具にする作法の一環です。



ですから懐石料理も涼しげなものになります。今回は「嵯峨野」という懐石料理屋をやっていた武田さんに調理場に入ってもらいました。鱧やアユなどの夏の魚に、とうがんなどの夏野菜を取り合わせた料理を、涼しそうな器に盛り合わせてもらいました。いかにも涼しそうな料理でしょ。現代は機械を使って、私たちの身の回りを強制的に涼しくしてしましますが、茶道は人間の五感を働かせて涼しさを創造してゆくものです。現代の生活に生かすべきものと思います。

大黒コーナー・・・オペラ 仮面舞踏会・・・

5月7日(土)、8日(日)まつもと市民芸術館主ホールにて、オペラを楽しむ会第5回公演オペラ「仮面舞踏会」を開催しました。初日は350人、2日目は777人、計1127人のお客様に来場いただきました。また、日本教育公務員弘済会長野支部、松本芸術文化協会、広告・協賛をいただいた地域の皆様の協力をいただき、開催できました。

公演までの道のりは、去年の1月から練習を開始して以来、1年4か月の期間の稽古となりました。まず、ソリストを決める段になり、希望者が多く、第4回公演までは1公演だけだった



のですが、少しでもオペラ人口の発展につながるためにと、今回の公演は2公演と決めました。しかし今まで以上に経費もかかるし、予算的に可能なのかどうかと不安も残りました。

合唱指導については、体をしっかり使い響く声を出せる方法やイタリア語の発音、意味、ニュアンスを伝えどう表現していくのかを訓練しました。オペラは、演劇の要素もありますが、やはり鍛えられた生身の人間の、マイクを通さない声の魅力が半分以上の要素を占めます。結果、あまりなじみのないこのオペラ「仮面舞踏会」もお客様に十分感動していただけたという手ごたえを感じることができました。

また、今回も向山ダンスアートアカデミーに協力をお願いしまして、舞台を盛り上げていただきました。オーケストラは、今までのピアノ・弦楽4重奏に加え、フルート・オーボエ・クラリネット・ファゴット・トランペット・トロンボーン・ティンパニーとどんどん協力者が現れて、音色も大幅に豊かになり、表現・デュナーミク（強弱）も充実してきました。



衣装部も、諏訪市在住のマクナリーみどりさんのアドバイスも頂きながら、ネットなどで安く上着を購入し、それを仕立て直すなど工夫しました。今回は仮面舞踏会に着るドミノというマント製作、1幕2場の身分を隠すために着るマント、合唱の方の衣装をゴージャスにオーバースカートや、男性ダンサーの上着のベスト、ブラウス等たくさんの工夫が必要で衣装の改良等大変な労力でした。大変ですが、スタッフ一同良いものを作りお客さまに感動していただける一環として

手作りしているという使命感に燃えて楽しく頑張りました。

また、助演、大道具・小道具の製作、舞台面での確かなアドバイスをいただきました。照明や音響、大道具などの舞台を（有）JUKU 上條様をお願いするなど、たくさんの協力者によって舞台が動きました。

一つのオペラを仕上げるには、営業・企画・制作・演出・合唱指導・ソロの練習、伴奏の練習など、様々な仕事があります。公演にかかる経費は協賛金、チケット売上金、ソリストの13か月分の積立金や合唱団の参加費で成り立っています。

もっと皆さんに様々なオペラを観ていただきたいのですが、一度の公演を仕上げるのに1年半の時間がかかります。地域の方たちでオペラを創りあげて、それが出演者・観客ともども楽しみになっているという意味では、とても喜びで、なくてはならないことをしているという思いです。さらに「オペラを楽しむ会」の公演を楽しみに待って下さっている方が増えますよう、試行錯誤を繰り返して目的に向かって邁進していきますのでご協力のほどよろしくお願いいたします。



掲示板 （皆様のご参加お待ちしております）

～施食会～

8月5日（金）12時より自家製によるお弁当、12時半より瑞松寺住職による、熊本やネパールでの地震からの復興支援の話、13時より観音講や合唱部の皆さと一緒に懐かしい唱歌の合唱、14時より法要（ご詠歌の会の皆様による奉詠）、15時よりお塔婆を配ります。また熊本地震復興支援のためのバザーを行いたいと思います。例年開催していますので品が少なくなりましたが、食品関係をそろえます。持ち帰るのに便利な風呂敷や紙袋など持ち寄ってお越しく下さい。そのほか皆さんにお参りいただけるような内容をと考えています。ぜひご参加ください。

．．． 檀信徒作業と懇親会 ．．．

例年通り 7月24日(日)14時より全久院で開催します。2時より本堂とお墓の清掃、窓拭き、山門の掃除をしていただきます。5時より懇親会となります。屋外でのバーベキューと冷たい生ビールという趣向です。参加希望の方は 34-4300 へファックスください。

．．． 座禅会 ．．．

9月17日(土)・10月15日(土)・11月19日(土)・12月17日(土) お粥と精進料理。
以上が下半期の日程です。毎回夕方4時集合4時40分まで青山俊董師の市民タイムスのコラム「従容録」を住職が解説し、5時45分頃まで座禅、6時まで茶話会という予定で行います。12月17日はお粥と精進料理を経験していただきます。座禅を経験していただくだけでなく、もの見方や生き方を豊かにすることができますと思います。ぜひご参加ください。

．．． ご詠歌会 ．．．

9月15日(木)・10月13日(木)・11月17日(木)13時より・12月15日(木)
午前10時半より12時まで、白板 東昌寺副住職 飯島恵道師にご指導いただきます。11月は都合で13時からにします。一緒にいかがですか。また、ご詠歌を始めたいという方に大黒が初心者コースを始める計画をしています。ご希望の方はぜひご連絡ください。上記とは違う日程を組たいと思います。

．．． 観音講 ．．．

毎月17日10時から12時半まで行います。ただし、10月17日は奈川に小旅行をして、そばを食べる予定です。内容は10時から観音様にお勤め、10時20分からご詠歌、10時50分から大黒の指導で唱歌の合唱11時20分より食事という日程です。現在15人ほどの参加者があります。気よりが良く60代から80代の方が元気に集まってきます。気楽な会ですのでぜひご参加ください。

．．． 歌の会 ．．．

9月7日(水)・9月21日(水)・9月30日(水)・10月5日(水)・10月19日(水)・11月2日(水)・11月16日(水)・12月7日(水)・12月21日(水)
午前10時より12時まで、お茶休憩をはさみ大黒が指導します。発声練習をして、唱歌、童謡、懐かしい曲など一緒にいかがですか。また、ハーモニーを付ける曲もあります。他の催しへの参加なども企画しています。音楽を通した楽しい友達もできますよ。お待ちしております。

．．． 全久院ホームページ ．．．

<http://zenkyuin.or.jp/>

全久院ではホームページオを開設しています。「全久院報」をネットで見ただけのようにしてあります。管理をしてくれている檀家の丸山耕一さんと親しみやすいものにしてゆきたいと思えます。また、皆様と意見や情報を交換できる場に育てて生きたいと思えます。ぜひ一度開いて見てご意見ください。